

報告者	学科名	造形デザイン学科	職名	助教	氏名	岡本 汐加
研究課題	展示空間を題材としたテキスタイルデザイン					
研究組織	氏名		所属・職	専門分野	役割分担	
	代表	岡本 汐加	デザイン学部 造形デザイン学科 助教	テキスタイル デザイン	企画・実施・報告	
	分担者	なし				
研究実績 の概要	<p>&lt;概要&gt;</p> <p>天神山文化プラザ主催の『天プラ・セレクション 2019-2020』の作家として選出され、2020年3月に個展を開催した。展示会場と展示作品の融合を目的とし、建築物として文化的価値の高い展示会場そのものを題材とした作品制作の展示を行った。このことにより、展示空間と作品が乖離する傾向にある短期間の企画展・作家主体の作品展示でありながらも、その会場でしか体験することのできない経験を市民に提供し、地域が所有する文化を再認識してもらうことが出来た。建築以外の分野、特にテキスタイルデザインに携わる者の視点で近代建築を主題として取り扱う例は数少なく、染織分野から異領域を繋ぐ展示として新たな切り口を開拓できた。</p> <p>テキスタイルデザインの制作においては、国内有数の繊維産地2箇所（尾州産地・遠州産地・丹後産地）を実際に訪問し、製造背景を理解した上で素材選定し、技術に関するコンサルタントを受けた。</p>					

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<p>&lt;成果発表の様子&gt;</p>  <p>&lt;結果と展開&gt;</p> <p>来場者との対話においては、素材・技法についてや制作経緯についての質問が多数寄せられ、素材選定の経緯や背景を話す機会に恵まれた。会場の天神山文化プラザでは年間を通じて絵画や書の展覧会が多く、一般来場者の多数は岡山市在住者でデザイン関連業界外であったが、作家の思考プロセスを展覧会内で大々的に扱う行為が受け入れられたことに成果があった。期間中は施設内での同時開催展示やイベントは無かったが、1日につき1～2名程度は本展覧会を事前に知らない建築視察訪問者であり、会場の建築作品としての価値を再認識することとなり情報交換ができた。一方で、テキスタイルデザインそのものの認知度が低いことが明らかとなり、今後研究制作成果発表の機会においては専門分野の基本的情報の説明準備する必要があると考える。</p> <p>会期中はコロナウイルス感染症問題が社会に蔓延しており、本展示だけではなく天神山文化プラザそのものへの来館者数が減少しているとのことであった。未曾有の社会変動の渦中において、展覧会などの成果発表・発信方法のみならず、文化事業において人と人とのつながりの希薄化が懸念される。</p>
	<p>成果資料目録</p>